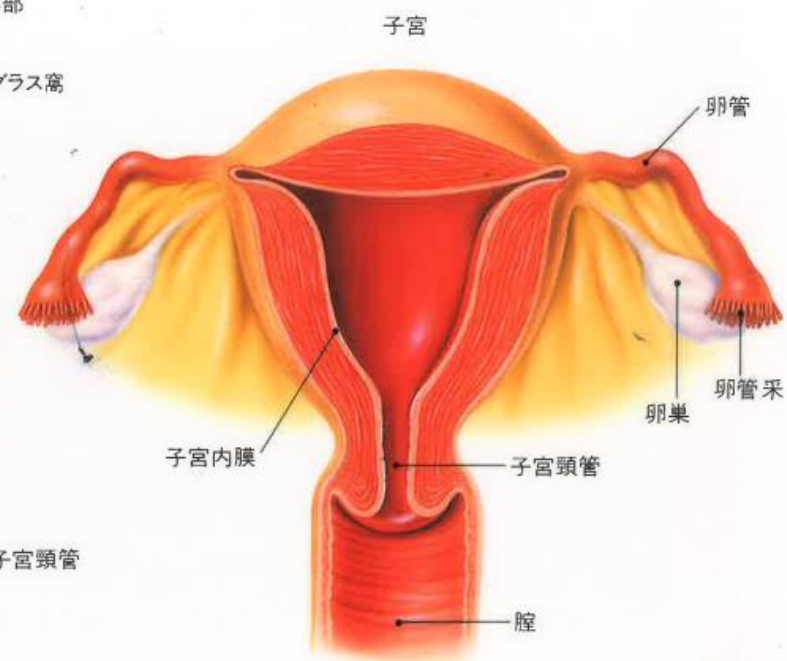
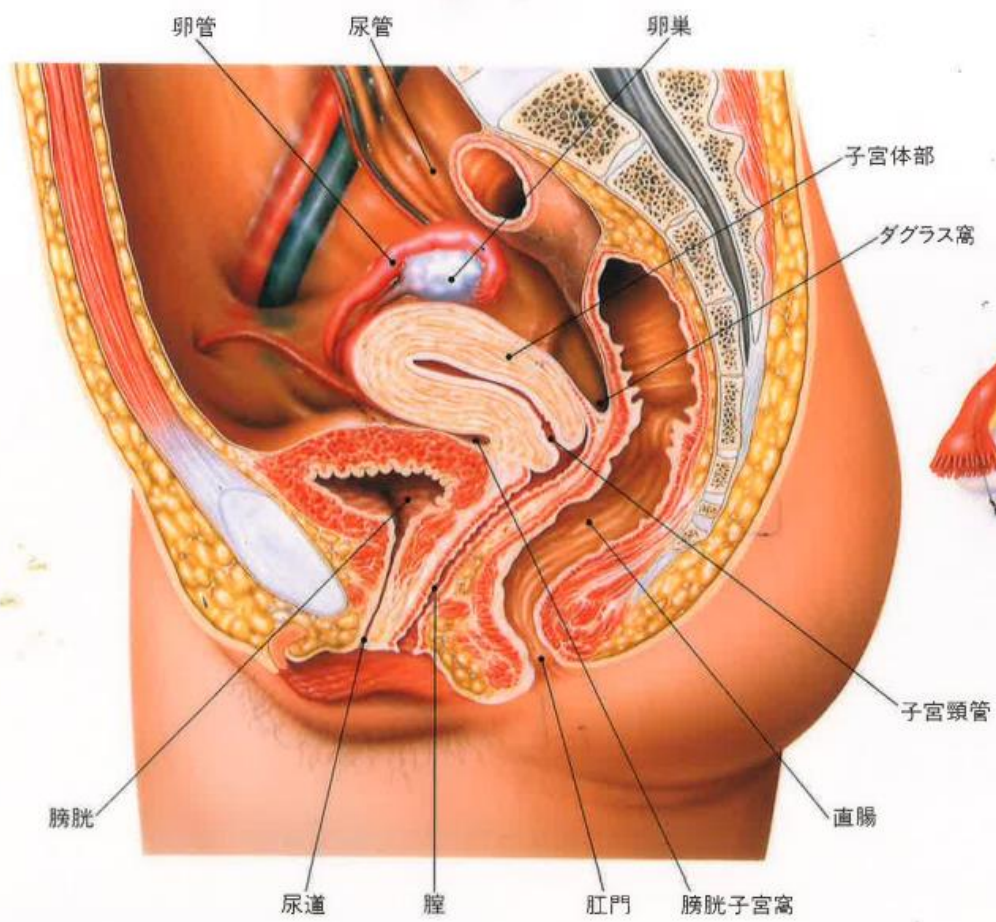


婦人科疾患における経腔超音波 （子宮体癌・卵巣癌）の必要性

黒沢病院附属ヘルスパーククリニック

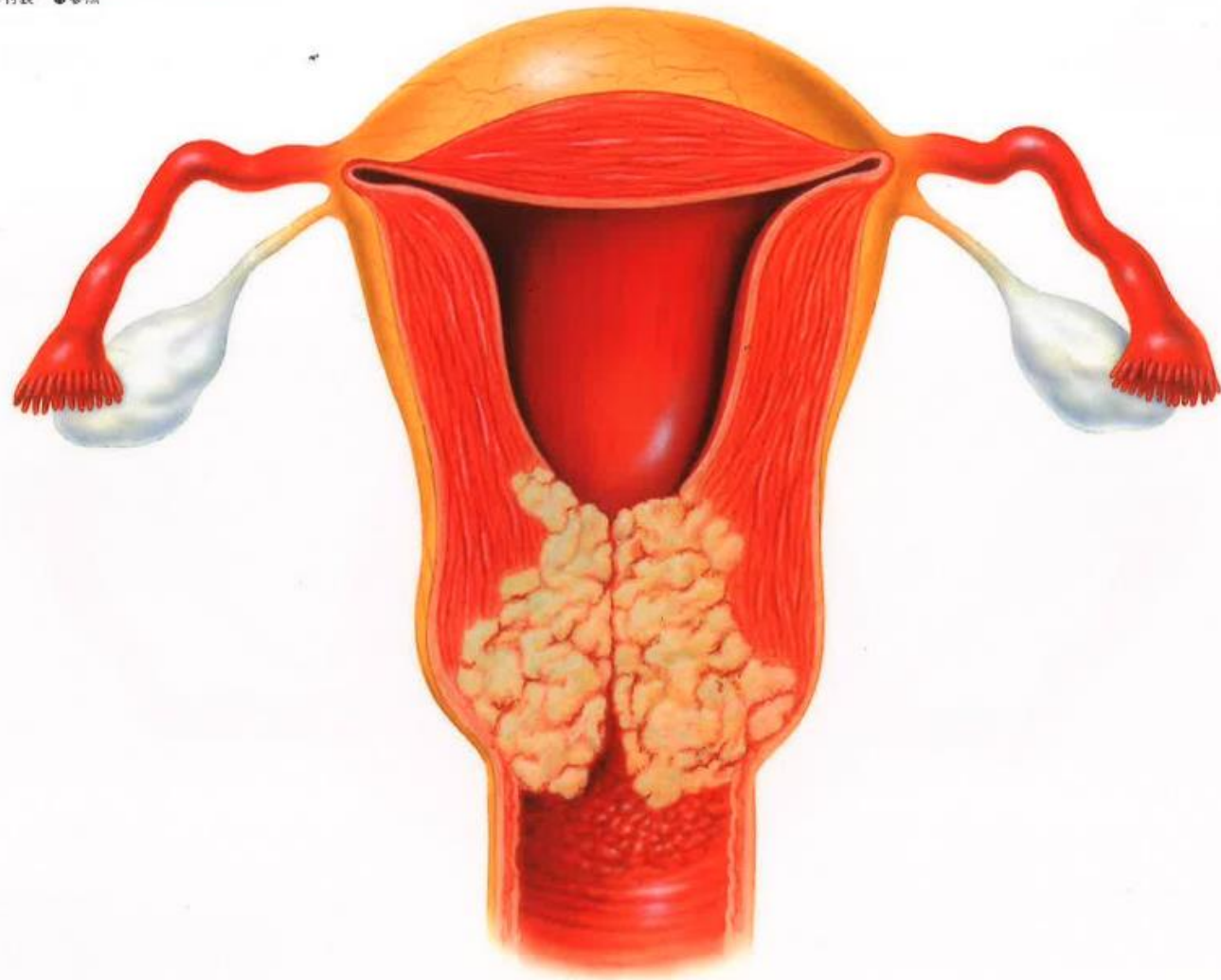
婦人科 酒井英明

正常子宮図



子宮頸癌

解説・付表①参照

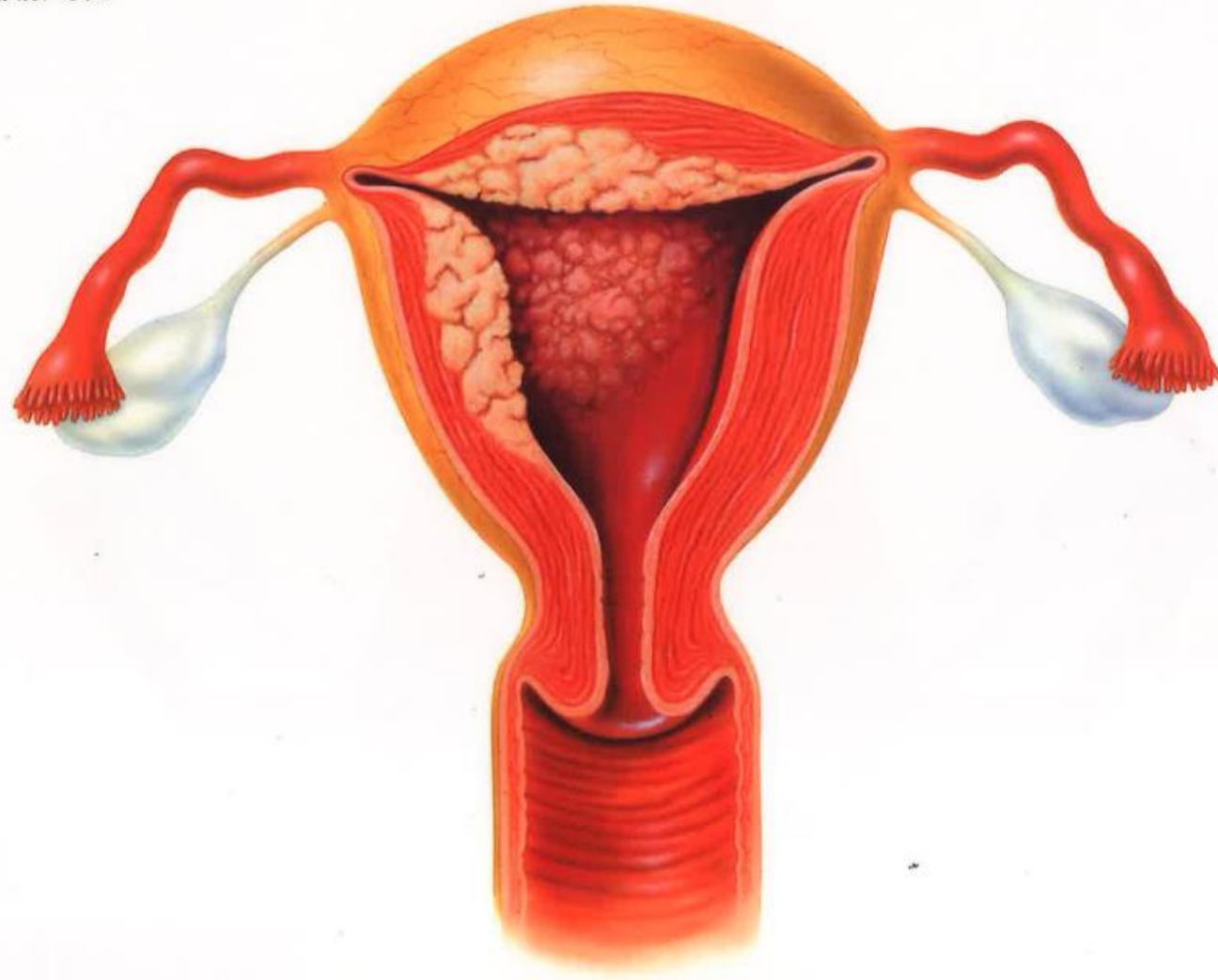


<子宮頸がん>

- 子宮頸部は肉眼的に見える場所であり、検査もやりやすく健診を定期的に行うと、早期に発見しやすい。
- 発生原因は性行為で感染する、ヒトパピローマウイルス（HPV）が関与しています。100種類以上の型のあるHPVの中でも、主に16型と18型の感染が主な要因。

子宮体癌

解説・付表一●参照



<子宮体がん>

- 子宮内膜から発生するがん。

子宮体部は肉眼的に見えず、不正出血などの症状で婦人科を受診して診断がされる。

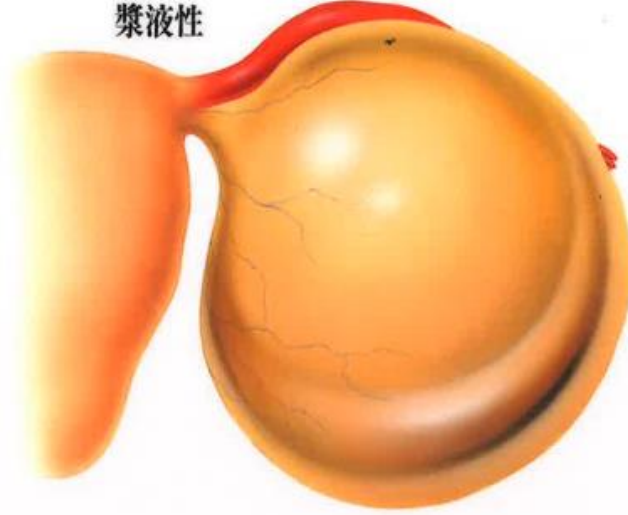
検査は痛みと出血を伴うため、受診が遅れて進行がんで診断される。

- 子宮体がんの発生原因はエストロゲンという女性ホルモンの刺激が過剰に、長期間続くことが原因。

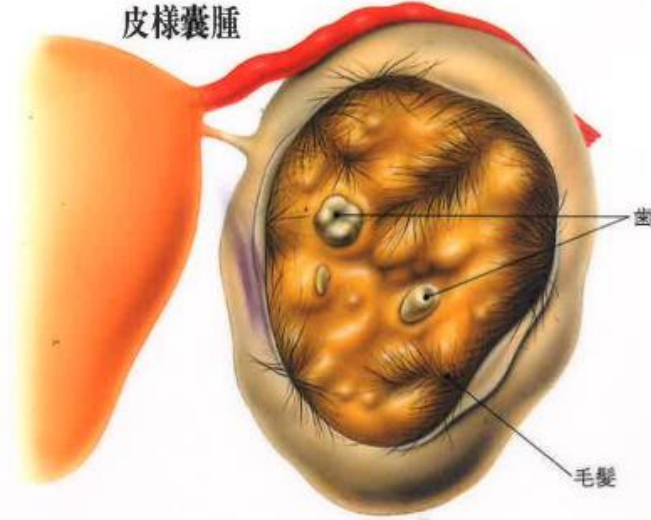
卵巢囊腫

解説・付表—●参照

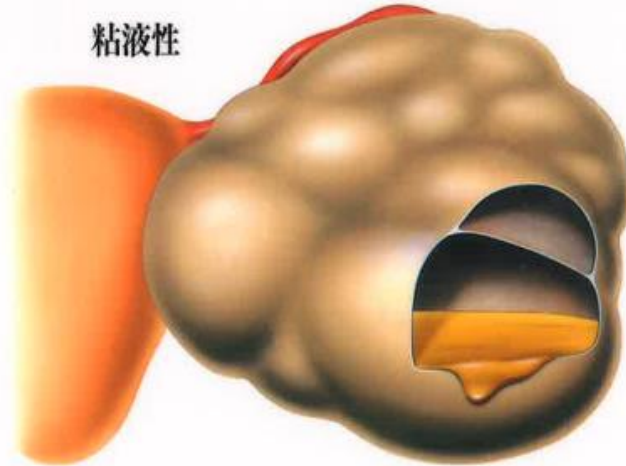
漿液性



皮様囊腫



粘液性



< 卵巣がん >

- 卵巣癌は見つかった時にはかなり進行しており、他の臓器への転移などを認めるため、スライドでは、良性の卵巣腫瘍の図を表示した。
- 卵巣がんの発生原因は10%が遺伝的要因によるもの、他は原因不明。

2022 年 4 月より経膣エコー検査を導入しました

触診（内診）と頸部細胞診（頸がん検診）のみでは卵巣がん、子宮体がんなど重要な婦人科の病気を診断することは困難です。経膣エコー検査を併用し、子宮内膜や左右卵巣を確認することで検査の精度は格段に向上します。この機会にぜひ検査をお勧めいたします。

検査内容

子宮がん検査（頸部）に追加できる検査です。膣から超音波のプロープを入れ、子宮全体と卵巣を観察する検査です。

経膣エコーで診断可能な病気

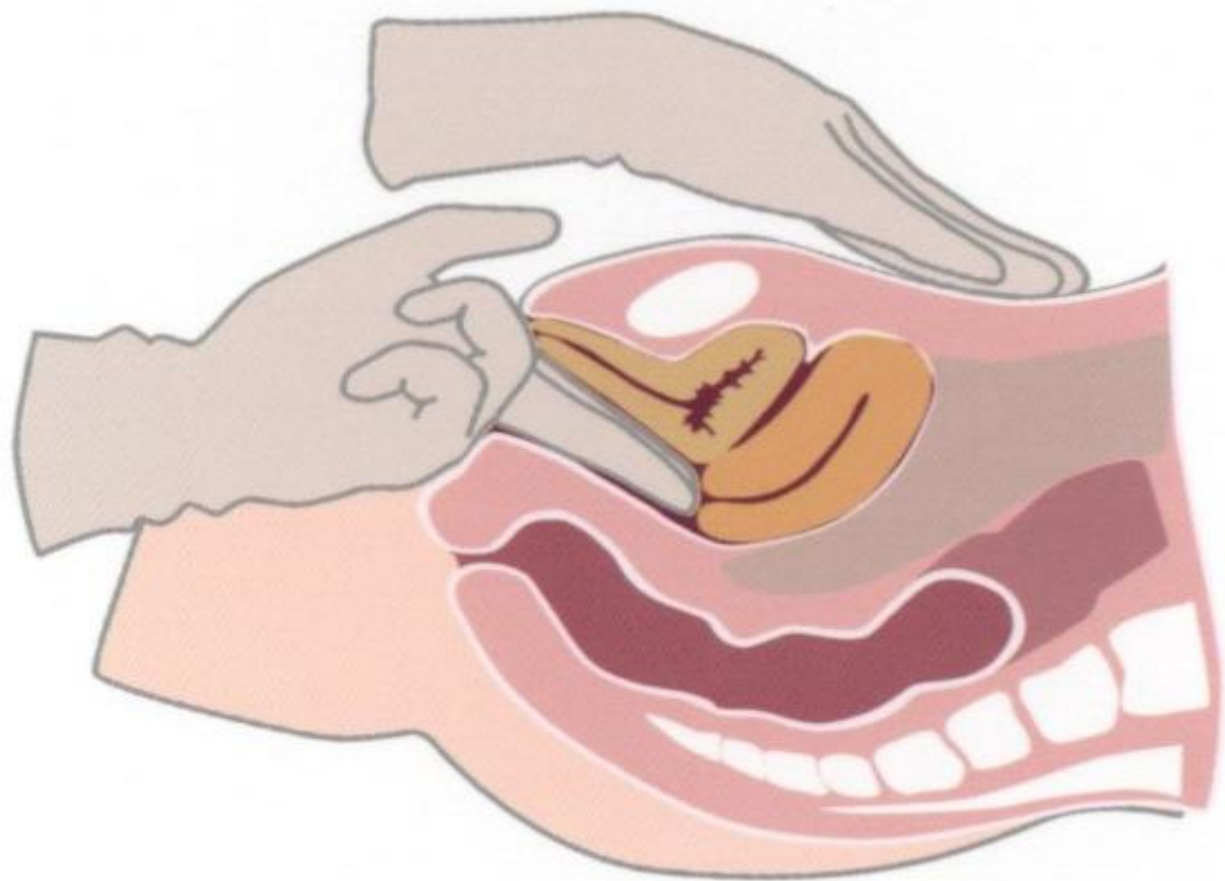
- ・ 卵巣腫瘍（卵巣がん・良性卵巣腫瘍）・子宮体がん
- ・ 子宮内膜増殖症（子宮体がんになる前の状態）
- ・ 通常の子宮頸部細胞診では発見しにくい子宮頸がん（悪性腺腫）
- ・ 子宮筋腫・子宮内膜症・子宮内膜ポリープ など



内診台



双合診（内診）





経腔用プローブ



エコー画像

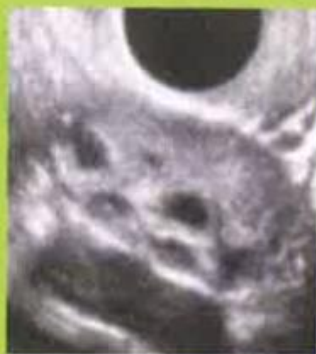




正常子宮



正常卵巣



良性卵巣腫瘍



良性卵巣腫瘍



卵巣がん



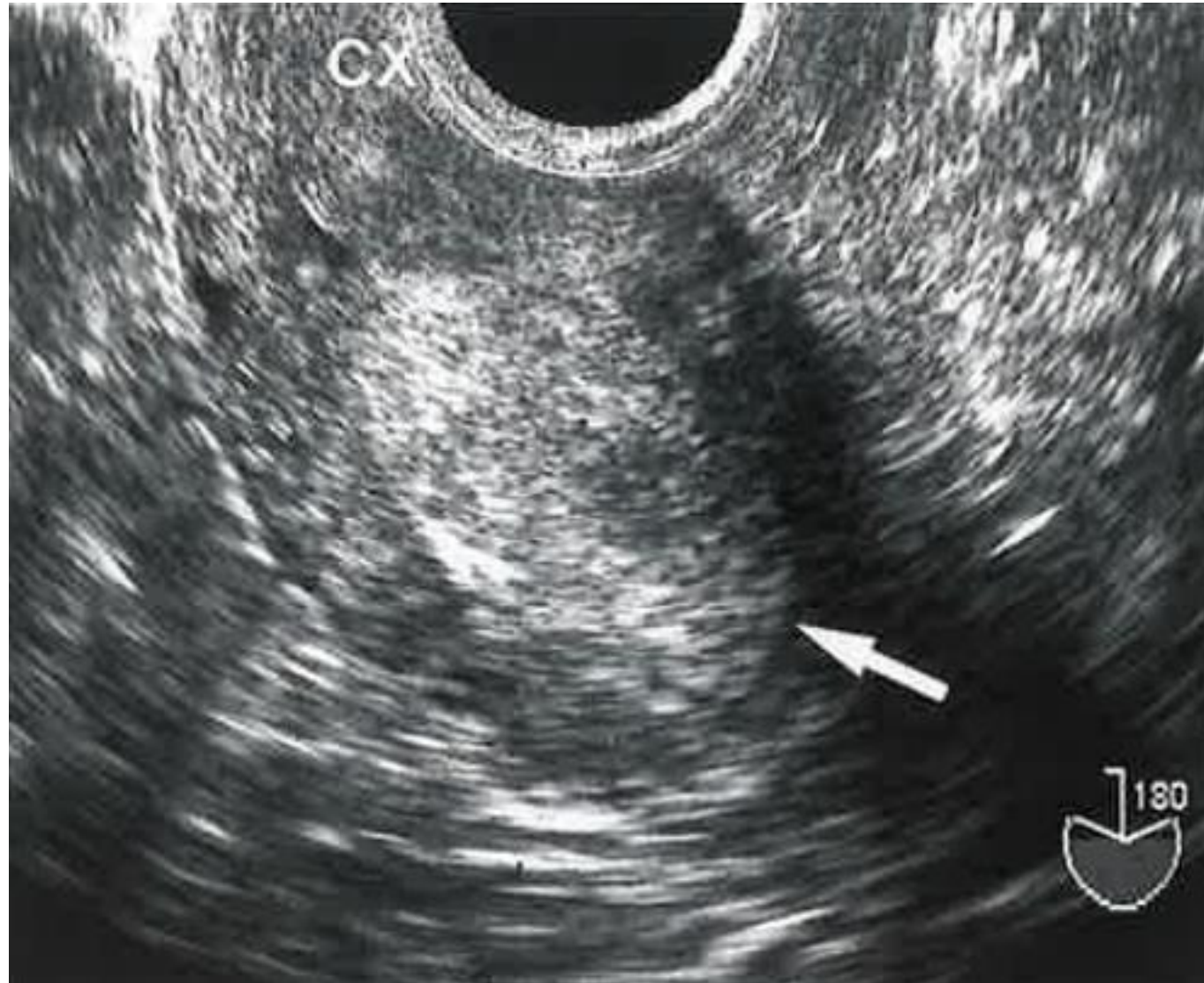
良性卵巣腫瘍



正常卵巣



子宮体がん

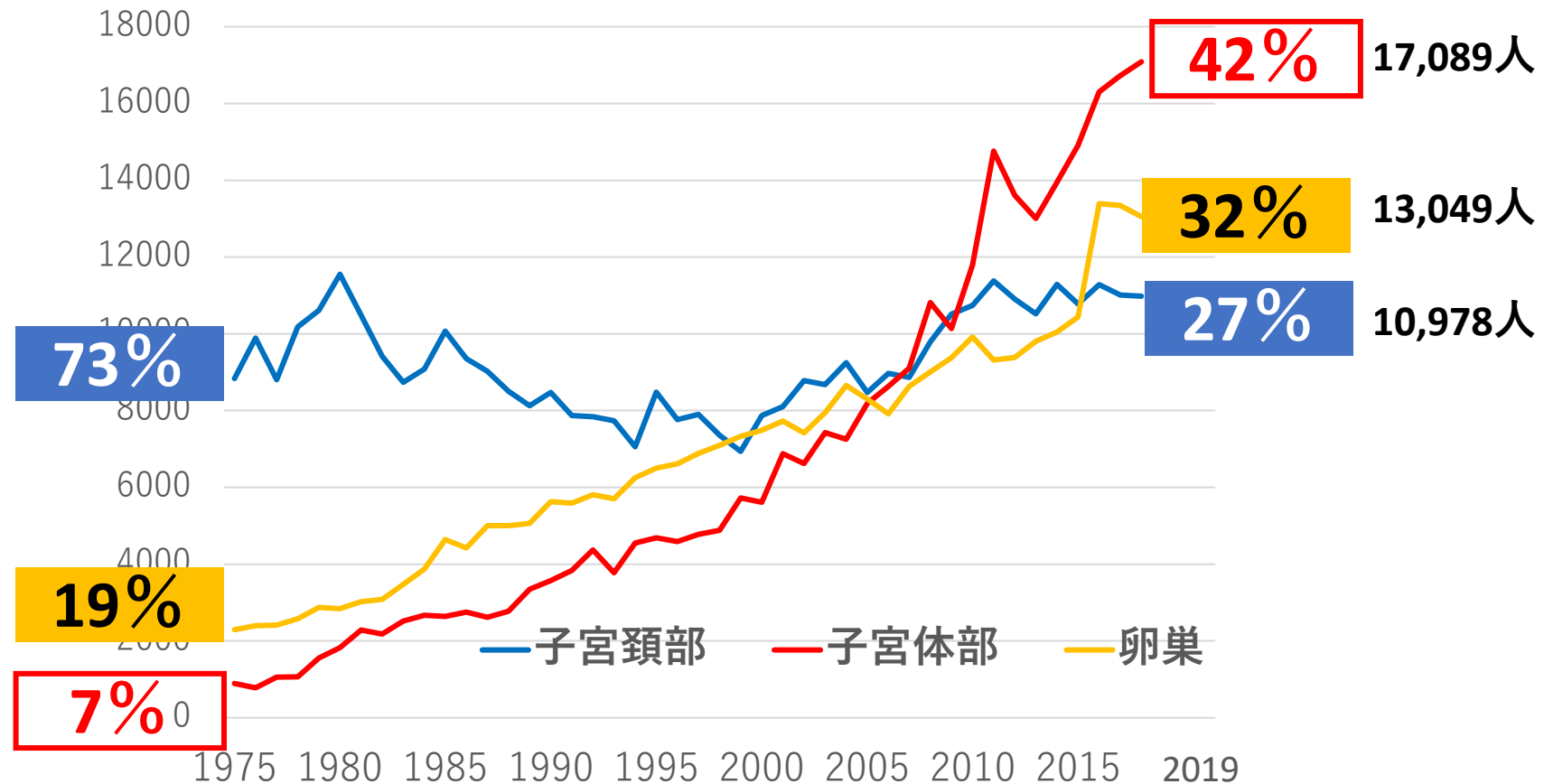


子宮体がん（閉経後）



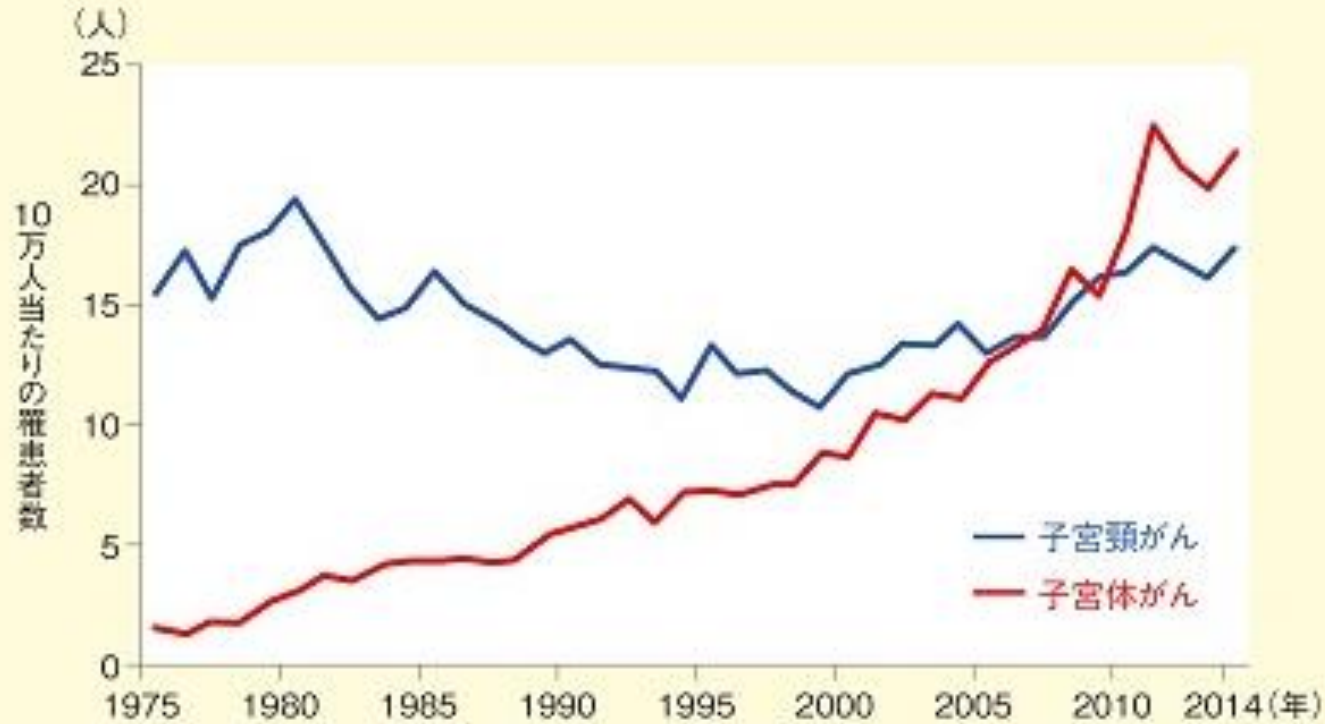
子宮頸・子宮体・卵巣がん罹患数年次推移

体がんと卵巣がんの比率が大幅に増加し、
かつて7割以上を占めた頸がんは27%となっている。

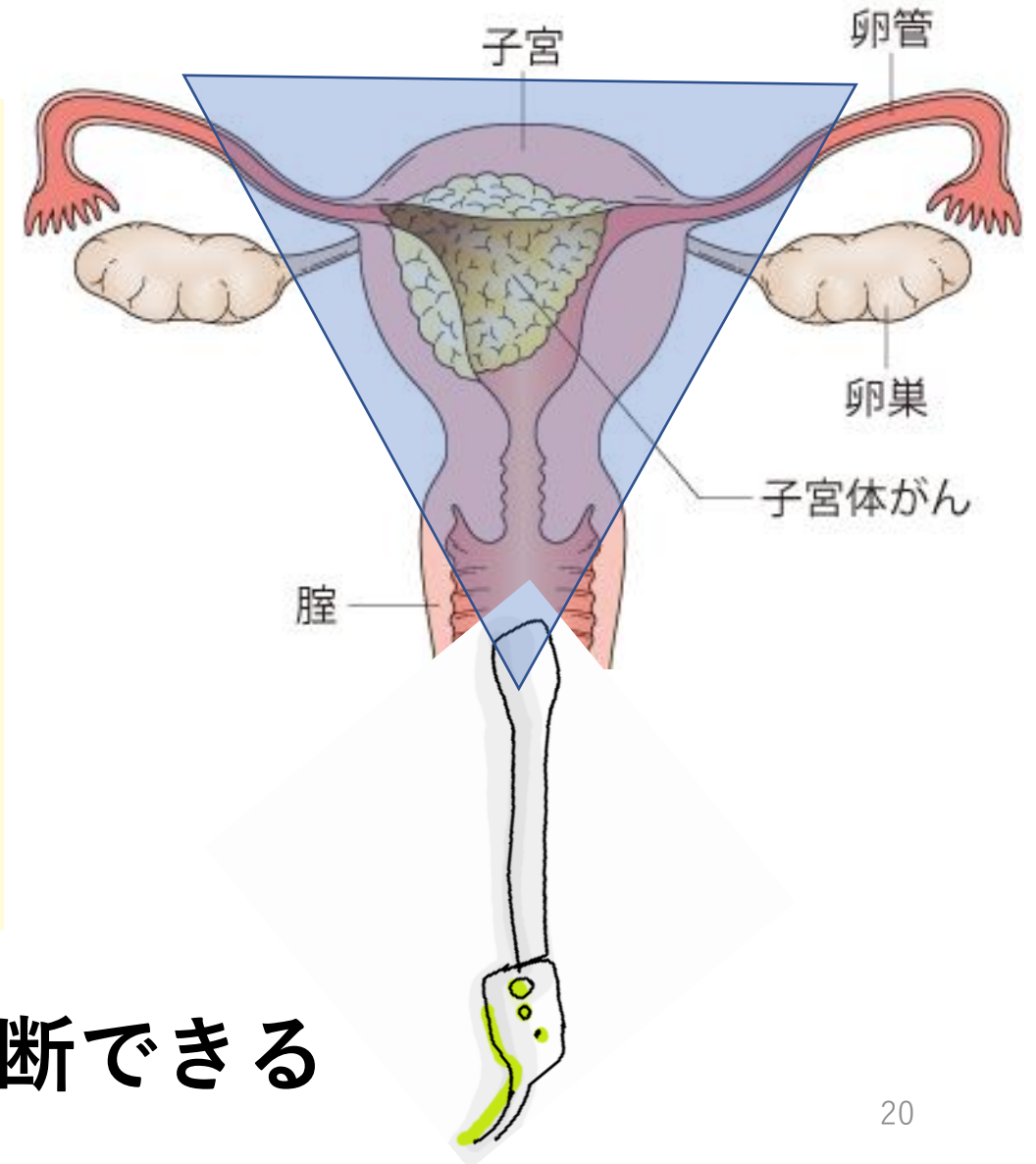


資料 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(厚生労働省人口動態統計)

近年、食生活の欧米化に伴い子宮体癌が増加して、
子宮頸癌を抜いて婦人科癌の1位を占めている



国立がん研究センター がん情報サービスより改題

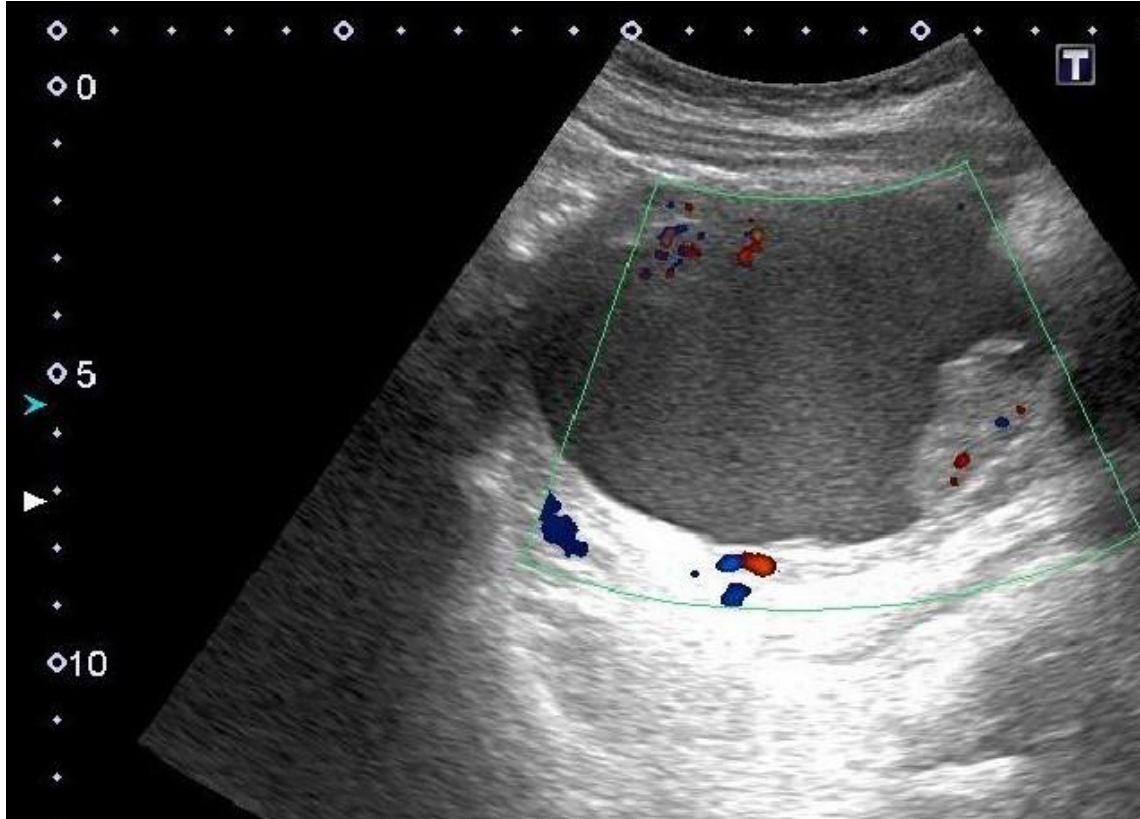


子宮体癌は経膣エコーで診断できる

症例提示

① 卵巣癌 62F

体表US



α スキャンでも骨盤腔内に充実部を伴う
嚢胞性疾患 $\phi 84\text{mm}$ を指摘していた
コロイド状の内容物 (+)

経膣US



経膣エコーではより鮮明に病変を描出できた
最終診断は卵巣癌であった

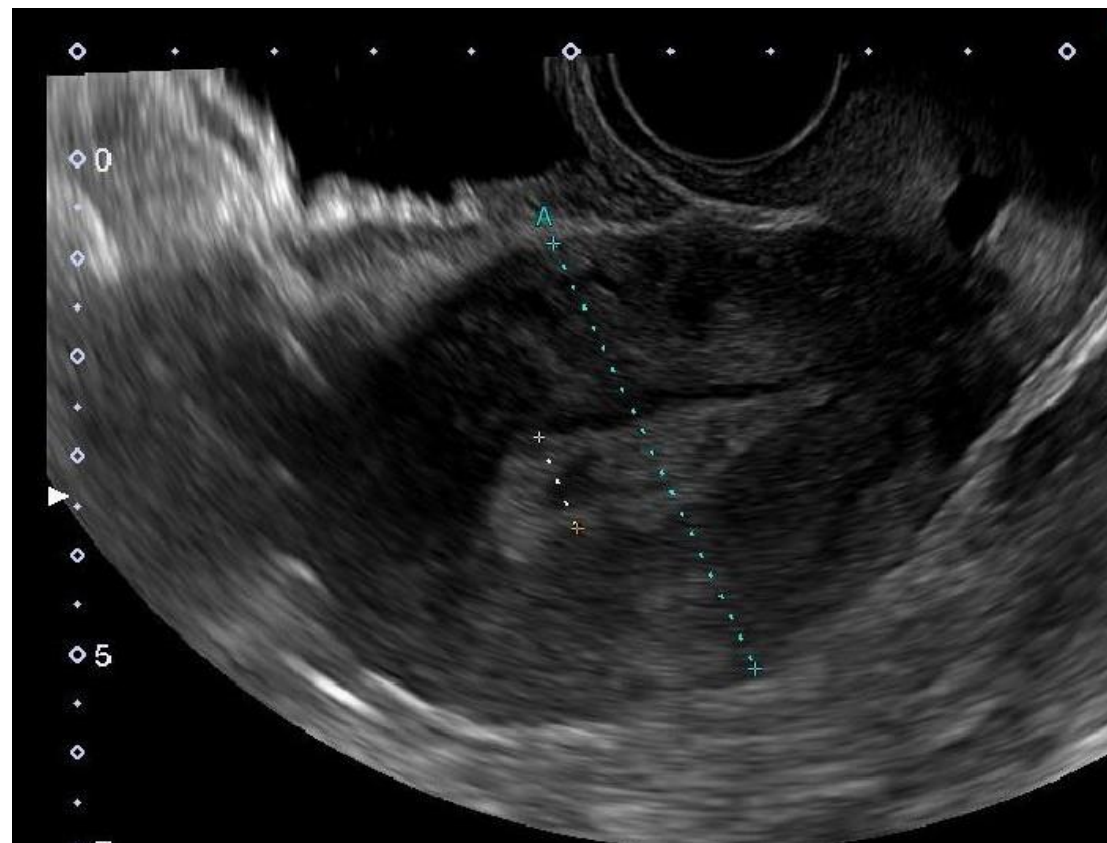
② 子宮体癌 63F

体表US



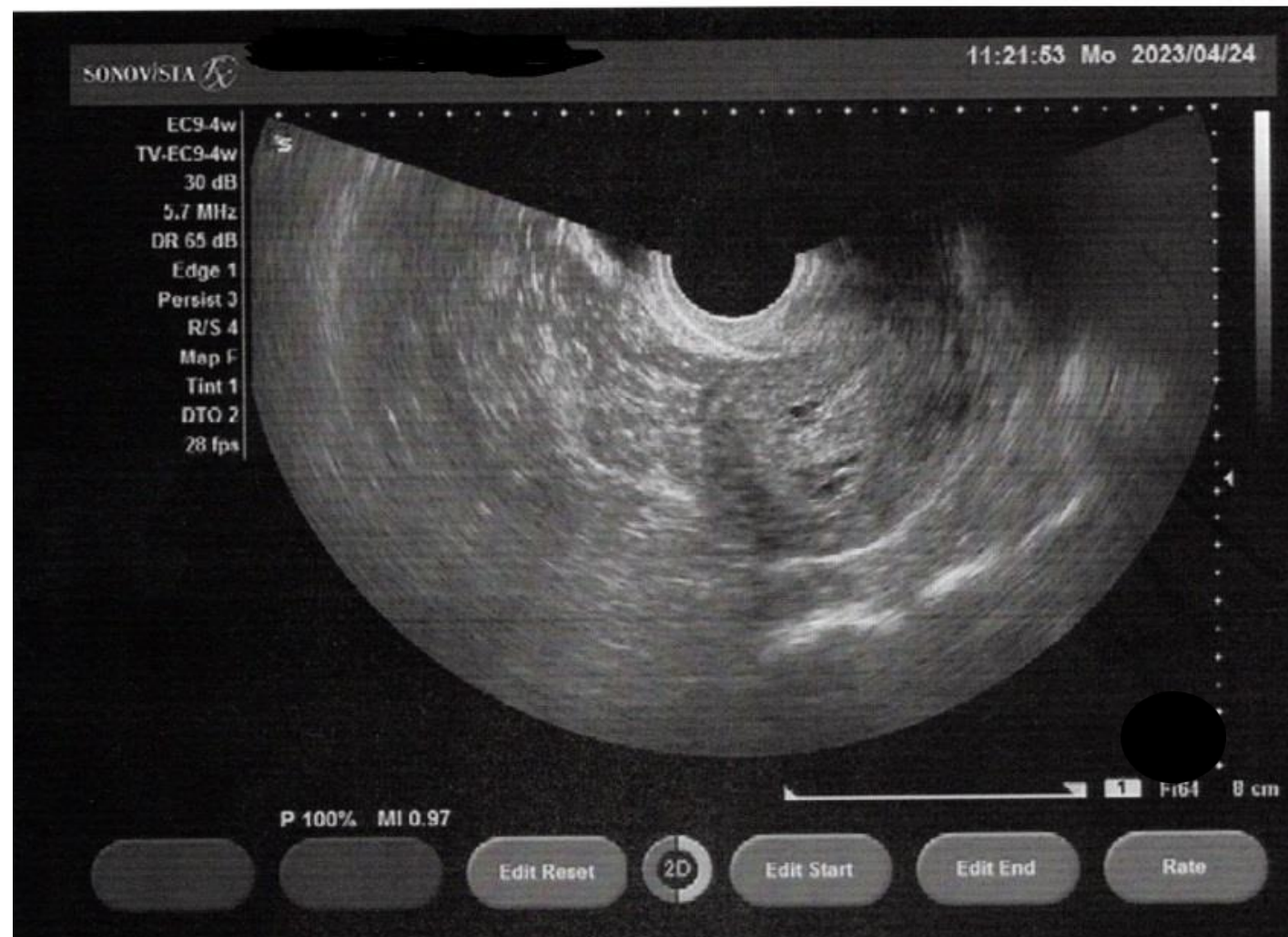
α スキャンでは消化管のガスのために子宮の描出は不良であった

経腔US

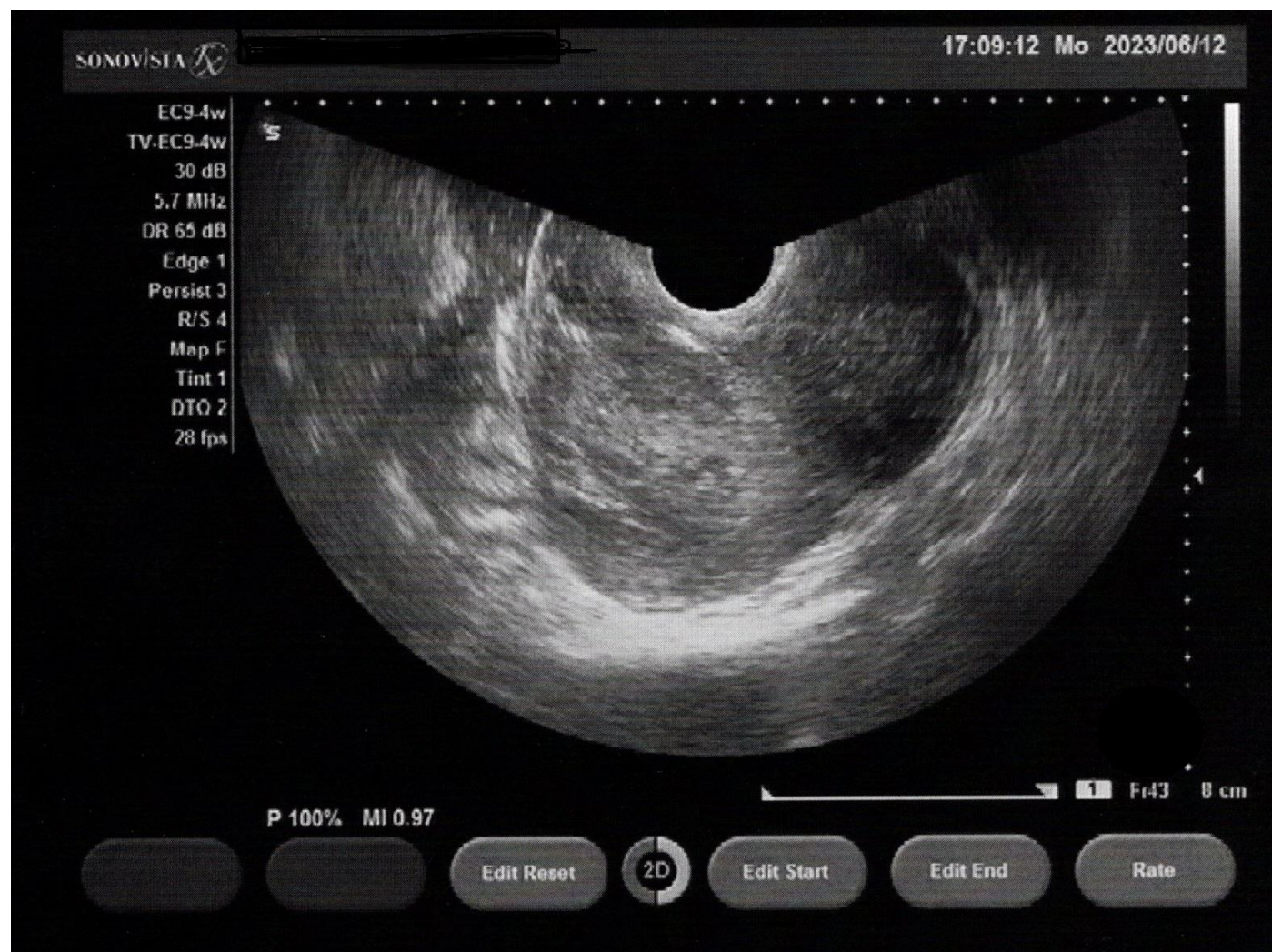


経腔エコーでは閉経女性の子宮内膜の肥厚（10mm）を描出し、精査となり、子宮体癌と診断された

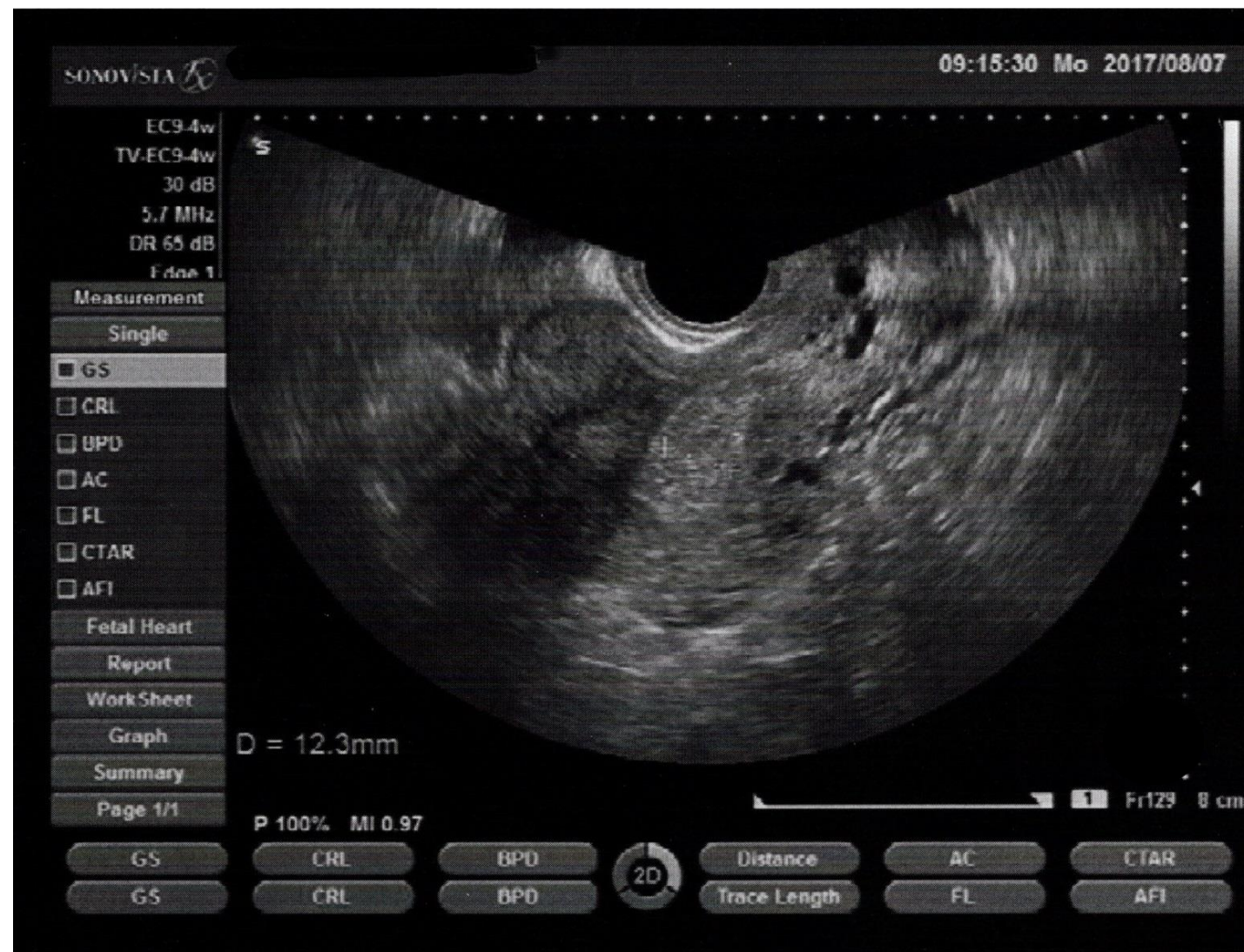
③ 子宫体癌 61F



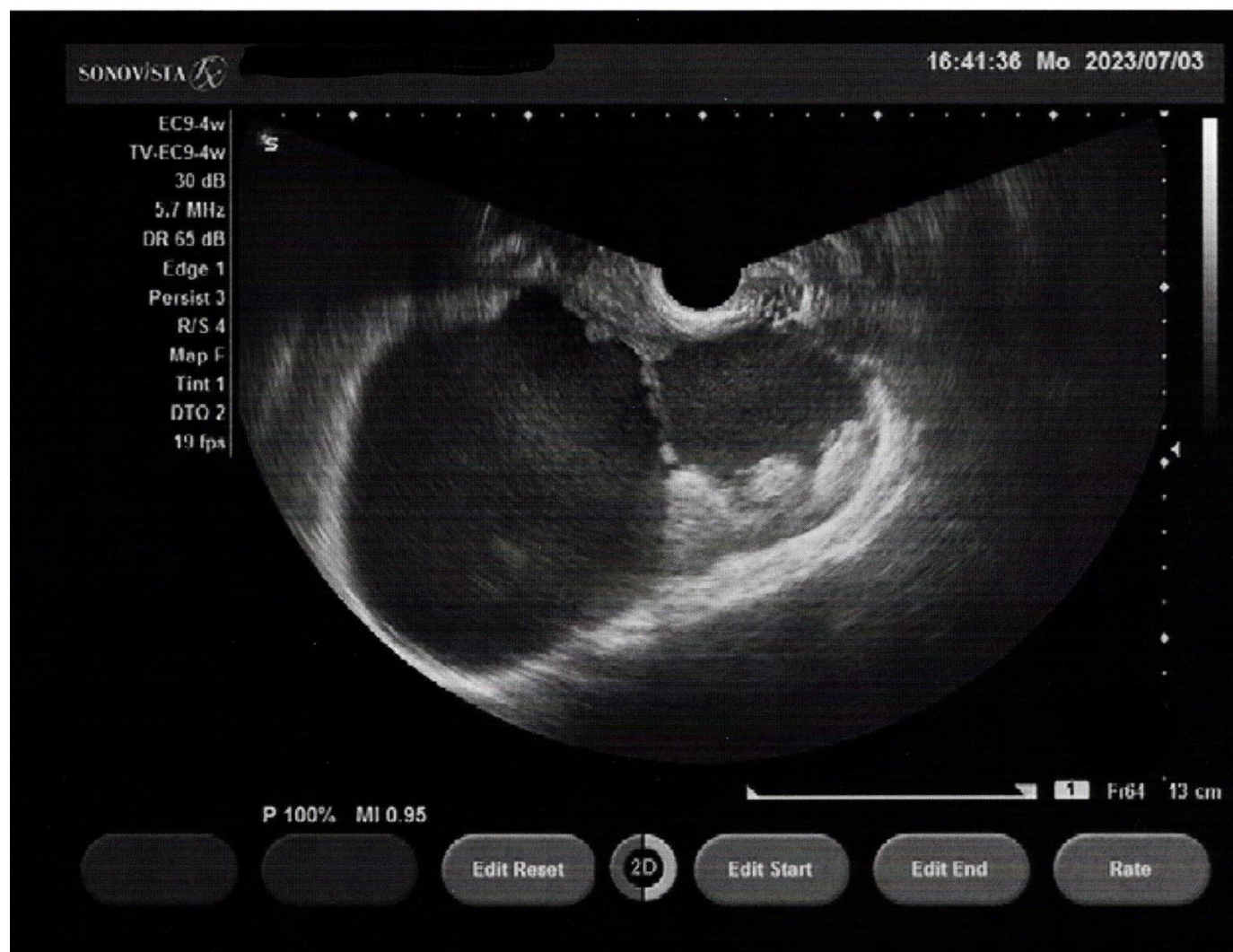
④ 子宮体癌 子宮筋腫 83F



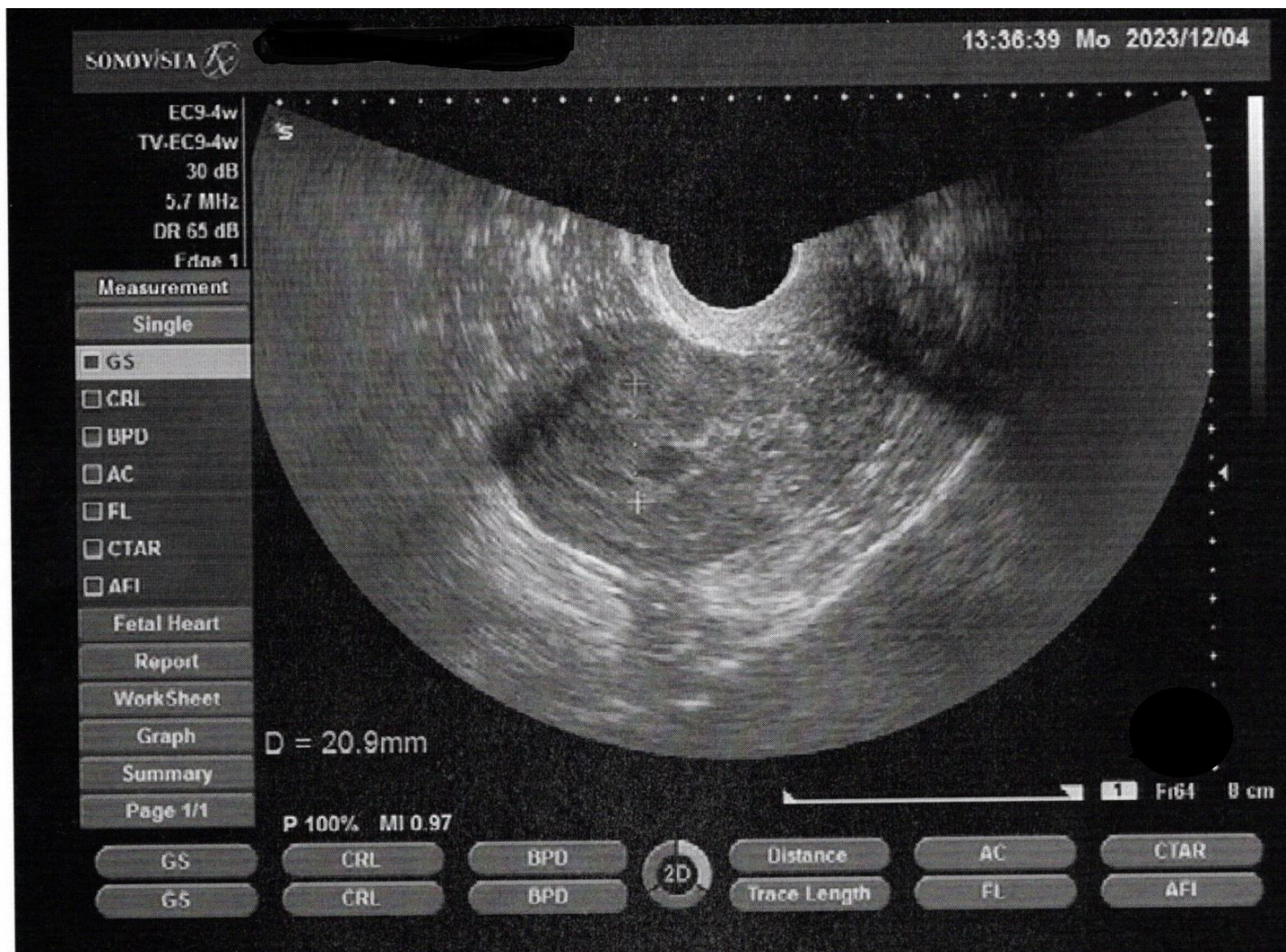
⑤ 子宮体癌 53F



⑥ 卵巢癌 49F



⑦ 子宮体癌 72F



まとめ

- 現在では子宮頸がんより、子宮体がん、卵巣がんになる頻度が高い
- 婦人科検診で今まで行われてきた内診と子宮頸がん検診では、不十分である
- 経膈エコーを婦人科検診で行うことによって、子宮体がん、卵巣がんの早期発見が可能である